

北村賞

我が国における公園緑地行政のパイオニアとして、長年、公園緑地に関する理論の研究と行政実務の指導に尽くされ、また日本公園緑地協会の実質的創設者として協会の育成と発展に大きく貢献された北村徳太郎先生の業績を称えるため、日本公園緑地協会の中に「北村賞」が設けられています。この表彰制度は、北村先生が昭和39年5月8日にご逝去されたあと、その業績を記念する事業の一環として、昭和43年3月社団法人日本公園緑地協会において「北村賞及び同基金に関する規程」及び「北村賞実施要領」を定め、公園緑地等の行政または調査、研究、計画、設計、管理・運営の理論等に全国的視点から著しい功績のあった方を表彰する制度です。

なお、この表彰は、昭和45年度から隔年ごとに実施してきましたが、昭和63年度からは毎年表彰を行っております。

第45回北村賞受賞者（敬称略・五十音順）

① うちだ やすお 内田 裕郎（67歳）

現 内田工業株式会社代表取締役社長
一般社団法人日本公園施設業協会会長

受賞理由

氏は、昭和53年、内田工業(株)に入社後、昭和56年から取締役、代表取締役社長として、木材防腐剤として使用されていたCCAに代わる低毒性防腐剤を世界に先駆け開発し、遊具の安全な木材防腐処理技術の確立に貢献した。又、継続して、各国企業と技術提携、現地法人設立など国際的な視野を持ち社業及び公園施設業界の発展に尽力している。平成2年に(社)日本公園施設業協会理事に就任し、公園施設の歩掛に関する研究、海外調査団の実施、公園施設団体賠償責任保険制度の充実に尽力すると共に、平成14年に副会長に就任し、同年「遊具の安全に関する規準」を策定・公表し、自治体等に配布・普及を図り、公園整備等を推進する国、地方公共団体等から高い評価を得ており、平成24年には建設事業功労者等国土交通大臣表彰を受賞している。平成28年から(一社)日本公園施設業協会会長として協会、公園施設業界の健全な発展と社会的地位の向上に寄与している。

② おがわ よういち 小川 陽一（70歳）

元 国土交通省大臣官房審議官（都市生活環境担当）
現 公益財団法人古都飛鳥保存財団常務理事

受賞理由

氏は、昭和50年に建設省へ入省後、平成20年に退職するまでの33年間にわたり、建設省（国土交通省）、鈴鹿市、愛知県、（独）都市再生機構等において公園緑地行

政の発展に尽力した。課長補佐時代は国営吉野ヶ里歴史公園の事業化、公園・緑化事業調整官時代は阪神・淡路大震災の発生を踏まえた防災公園の補助対象拡大や防災緑地緊急整備事業の拡充等を実現した。公園緑地課長時代には、平成18年のバリアフリー法制定を受けた公園施設の移動円滑化基準適合を制度化するとともに、地域防災拠点を防災公園体系に追加し、広域避難地・避難路への支援を充実するなど、都市の安全性快適性の向上に大きく貢献した。

③ かねこ ただかず
金子 忠一 (63歳)

元 東京農業大学地域環境科学部造園科学科教授
公益社団法人日本造園学会副会長
現 World Urban Parks ジャパン副会長
一般財団法人公園財団理事

受賞理由

氏は、昭和57年より東京農業大学で造園計画学、公園マネジメント論等の教育に努め、「都市公園の管理計画指針の基本構造に関する研究」(学位論文)をはじめ都市公園の管理運営に関する研究を究め、「パークマネジメント」等の学術図書を著し、我が国の都市公園における指定管理者制度による公園管理や官民連携による都市公園の魅力向上ガイドラインの制定に著しく貢献した。また国土交通省、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市等の多くの自治体の公園審議会、緑の基本計画策定、都市公園指定管理者選定・評価等の委員をつとめ、さらに(公社)日本造園学会副会長、World Urban Parksジャパン副会長、(一財)公園財団理事、(一社)日本公園緑地協会研究顧問等の役職をつとめた。このように我が国の公園緑地に著しく活躍した。

④ にしかわ よしてる
西川 嘉輝 (69歳)

元 国土交通省都市・地域整備局公園緑地課緑地環境推進室長
現 公益社団法人日本家庭園芸普及協会専務理事

受賞理由

氏は、昭和52年に建設省へ入省後、平成20年に退職するまでの31年間、建設省(国土交通省)、国土庁、北海道開発局、沖縄総合事務局、地域振興整備公団、愛知県や大津市において公園緑地行政の発展に尽力した。課長補佐時代には都市公園でのオートキャンプ場の全国展開、国営明石海峡公園の事業化、国営吉野ヶ里歴史公園の閣議決定・基本計画策定等を担当し、国営公園の所長時代には、国営昭和記念公園みどりの文化ゾーンの整備・昭和天皇記念館設置調整、国営東京臨海広域防災拠点の事業化、美ら海水族館の企画・事業化など多くのプロジェクト立上げに携わっている。また首里城公園の復元過程をまとめた記録誌は今回の復元に広く活用している。このほか緑地環境推進室長時代には歴史まちづくり法制定に向けた審議会の運営等に取り組んだ。退官後も(一財)公園財団、(公社)日本家庭園芸普及協会において造園界の発展に寄与している。

⑤ ほそおか あきら
細岡 晃 (65歳)

元 東京都建設局公園緑地部公園計画担当部長
現 公益財団法人東京都公園協会公園事業部長

受賞理由

氏は、昭和56年に入都以来、国政から区政まで行政職員としてあらゆる立場で公園緑地行政に活躍された。特に多様な主体との協働による「公園経営」に、全国に先駆けて退職まで一貫して取り組んだ。例えば、民間の力や発想を最大限に生かす民間主導の協働イベントの端緒となる平成15年の日比谷公園100年記念事業を皮切りに、平成18年の日比谷公園「旧公園資料館」保存・活用事業では民間の発想と資金により文化財的価値を活かしつつ、魅力的な公園施設として再生させ、民活による施設整備の先駆けとなった。また平成24年の全国都市緑化フェアでは、メイン会場の1つである井の頭恩賜公園の運営を現場所長として采配し、多様な主体の参画により成功させ、翌平成25年には井の頭池のかいぼりを多くの市民との協働により実施するなど、「公園経営」という新しい理念を具現化し、今日まで続く取組として根付かせ、東京の公園緑地の発展に寄与されたその功績は多大である。

⑥ まえざわ よういち
前澤 洋一 (70歳)

元 一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会副会長
現 株式会社ブレック研究所専務取締役

受賞理由

氏は、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会の理事、副会長を歴任し、造園コンサルタント業の普及に努め、職能の確立、認知に貢献した他、全国造園デザインコンクール[®]の審査委員に就任し後進の育成にも寄与した。日本造園学会の理事として造園CPD推進委員や造園作品選集刊行委員会副委員長を務めるなど、造園界の発展にも尽力した。ランドスケープアーキテクトとしては、愛知万博の環境影響評価推進などの環境調査関連をはじめ、東北地方太平洋沖地震の震災メモリアルパーク等の計画・設計等においてもその手腕を発揮し、多くの賞を受賞している。

(年齢・現役職は、令和5年3月31日現在)